

## 手すき和紙存続 川原さん訴え

きんたろう倶楽部

森林保全に取り組むNPO法人「きんたろう倶楽部」の森づくり講座が29日、富山市ファミリーパークで開かれた。朝日町蛭谷で蛭谷和紙づくりを継承している川原隆邦さんが「山にコウソウで文化興し」と題して講演した。

同倶楽部は、蛭谷和紙を含む越中和紙づくりを支援しようとして、園内で和紙の原料とな



るコウソウを栽培する計画を進めており、講座はその一環として開催。

川原さんは洋紙の普及や和紙づくりの機械化が進み、手すき和紙の作り手が減少していること現状を説明。「手すき和紙の魅力を見直し『文化の地産地消』に理解を深めてほしい」と訴えた。講演後、川原さんは聴講者と園内に自生するコウソウを観察した。写真。森づくり講座では今後、川原さんと一緒に和紙づくりなども行う。